

藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's
University
Library

新入生
歓迎号

No.97
2019.4

1. 図書館で、友なる本に出会おう！
…… 文化総合学科 勝西 良典
4. 高校生・中学生の職場体験
5. LiSt活動報告 第4回
6. 学生による企画展示
6. 新規データベース紹介
7. 図書館からの報告
(地震の被害状況について)
8. 図書館資料Navi 第13回
外国の建築家から見た日本の建築美
…… 人間生活学科 田中 宏実

CONTENTS



図書館で、友なる本に出会おう！

文化総合学科 勝西 良典

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。間もなく改元を控えたこの年に入学されたことに、何らかの感慨を覚えていらっしゃる方も少なくないでしょう。在学生のみなさん、お帰りなさい。春休みばかりを引きずっている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。かく言う私も、北海道では冬ごもりの虫が這い出るのも本州より1ヶ月以上は先のことなどと、独り言ちておる不精者であります。そんな人間の、30年以上前になる高校時代の、本と図書館にかかわるきっかけとなる話を、この場をお借りしてご披露させていただきます。

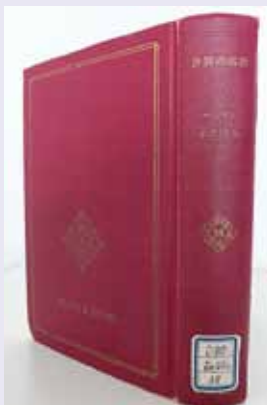
大学に入るまで、私は本とは縁もゆかりもない人間で、ラジオにすら興味を覚えず、ひたすらテレビばかり見て日々を過ごしていました。新聞もテレビ欄とスポーツ欄しか目を通さず、まともに接する活字と言

えば、趣味の雑誌¹か教科書でした。時々、読書感想文などという「○にもつかないもの」(○に入る漢字については、みなさんのご想像にお任せします)を宿題として課されましたが、その時は、文庫本の後ろの解説を読んでちょちょいとでっち上げるタイプでした。

このように、本を積極的に読もうとしなかった私は、それにもかかわらず、厚かましくも研究者になりたいと思っていました！ そんな私が哲学の研究に進もうと思ったきっかけは、高校の倫理の授業で副読本の資料集に出会ったことでした。小学生の時から授業中にじっと座っていることができなかつた私は、高校生になっても相変わらず教師の話をちゃんと聞くことができなかつたのですが²、授業中に隣の人間とおしゃべりする合間に副読本に収録されている哲学者

の文章に触れるのは好きでした。大げさなことを言いますと、「人間とは何か」ということに興味があった私は、哲学者の文章にはまりました。ずぼらな性格だったので、さらに進んで哲学書を読むことはありませんでしたが、言葉の意味を規定し、そこからさらに意味規定を掘り下げていくという哲学者の論の運び方に惹かれたのです。そこには同時に、乗り越えがたい（と思われる）飛躍も発見されましたが、そのことによってますます心が奪われたのです。例えば、こんな文章が私の心を捕らえました。

功利主義が正しい行為の基準とするのは、行為者個人の幸福ではなく、関係者全部の幸福なのである。自分の幸福か他人の幸福かを選ぶときに功利主義が行為者に要求するのは、利害関係をもたない善意の第三者のように厳正中立であれ、ということである。／ナザレのイエスの黄金律の中に、われわれは功利主義倫理の完全な精神を読みとる。おのれの欲するところを人にほどこし、おのれのごとく隣人を愛せよというのは、功利主義道徳の理想的極致である。
(J. S. ミル『功利主義論』³)



『世界の名著 38
ベンサム・J. S. ミル』
(中央公論社、1967年)
請求記号：080 / Se22c / 38

『世界の名著』(全81巻 [旧版：全66巻；[続]全15巻])は、哲学・倫理学分野の名著を手軽に読めるありがたいシリーズ。解説部分も今でも通用するものが多い。

この文章を少し分析してみましょう。ミルの提唱する功利主義の立場からすると、①正しい行為とは関係者全部の幸福につながる行為であって、その行為を実践する当事者個人の幸福を目指すものではありません。そこからミルは論を進めて、②どのような行為を選択するかを決断を下す者は、自分の幸福と他人の幸福が対立するときには、関係者全部の幸

福を目指せるように、中立な第三者として厳正に公平公正でなければならないと言うのです。さらにミルは、③公平公正になすべき行為を指定できる者の究極の理想型が自らの望むものを人に与え、自分と同じように目の前の相手を愛する者だとまで言い切ります。高校生勝西は、①から②への論の運びを深まりと理解し、②から③を飛躍と解釈しました。飛躍と思わずにいらなかったのは、利害関係を離れることによって公平公正を貫く正義のふるまいは、目の前の相手、もしかすると自分の利害に固執してこちらに対して敵意を剥き出しにして向かってくるかもしれない相手のことをそれでも愛することと同じことだとは思えなかったからです。愛することと第三者であることは、高校生勝西にとっては両立しないことでした。それでもミルは馬鹿だと思わなかったのは、こういう正義の人が根本的には愛の人でなくてはならないとミルが強く思っていたことを、当時はこのような言葉で明確に述べることはできませんでしたが、何となく感じ取っていたからかもしれません。いや、これは自分にとって都合よく書きすぎで、ただただミルの気迫のようなものを感じ取っていた（あるいは、そう思い込んでいた）だけなのでしょう。

こうして私は、倫理の授業中の一部の時間限定でおしゃべりする、出来のいい友人をたくさん得ることができました。そして、目の前のリアルに動くクラスメートたちならば決して許してくれないような対話（引用した文章とそれに続く段落で書いたようなことを学食でできませんよね！（笑）を、ありとあらゆる時代のありとあらゆる人間と楽しむことができることを知ったのです。これが本当の意味で、本との（そして実は図書館との）出会いになりました。それは学校の副読本というロマンチックな雰囲気のかけらもないもの（図書館）に埋め込まれた断片的テキスト（本）に過ぎませんでしたが、そのような断片との交わりを通して、私は自分を取り巻く世界や自分自身を見つめ直すようになっていったのです。

他者の言葉は他者の世界観を表現しています。そうした世界観に接することによって、自分の世界観がはっきりとした輪郭を伴って立ち現れてきます。こ

うした他者との出会いは、時に鋭く対立することによって自分の世界観が磨かれるという体験の場でもありますし、自分のまだ見ぬ世界を見せてくれるという学びの場でもあります。生きた具体的な他者の言葉も大切ですが、そのようにして交流することのできる他者の数は限定されていますし、そうした他者との時間は時にマイナスの効果しかなかったと感ぜられることもあるでしょう。しかし、大学の図書館には歴史

的淘汰を経て厳選された素晴らしい古典や、専門家によってセレクトされた新しい良書が並んでいます⁴。図書館という場で、あらゆる時代、あらゆる場所に生きていた人たち（本）と友人になり、豊かな人生を築いていってください⁵。それが、かつて本をまったく読まなかったにもかかわらず、図書館で出会う友なる本に救われ続けている大学人の願いです。



久保元彦『カント研究』

（創文社、1987年） 請求記号：134.2 / Ka59k

卒業論文をカントの『純粹理性批判』で書こうと決心させてくれた本。その時に生きていた、あるいは亡くなっていたどの国のどの人の言葉よりも、ここに収録されている「内的経験」と題された一連の論考が筆者を勇気づけるとともに、筆者の前に立ちはだかった。論文を読んで感動で泣いたことは、後にも先にもこれしかない。

【左】 Emmanuel Lévinas, *Dieu, la mort et le temps*

（Paris: B. Grasset, 1993⁶）
請求記号：135.9 / L57

【右】 エマニュエル・レヴィナス『神・死・時間』

（法政大学出版局、1994年） 請求記号：080 / U75 I

修士論文をでっち上げた後、カント研究を継続することに意味を見出せなくなっていたときに、カント解釈の新たな可能性を示してくれた恩人と言うべき本。

- 1 中学時代は『Gun』（国際出版、1962-2011年）という銃の雑誌に、高校時代は『Stereo Sound』（ステレオサウンド、1967年-）というオーディオの雑誌にはまっていました。もちろん少年漫画誌にも（笑）。
- 2 現在であれば、何らかの病名が付けられていたかもしれません。こればかりは専門家ではないのでわかりませんが。
- 3 『世界の名著38 ベンサム・J. S. ミル』中央公論社、1967年、478ページ。
- 4 本学の図書館で「指定図書」として配架されている本は、みなさんに読んでほしいと思って各教員が厳選したのもでもあります。
- 5 あらゆる時代、あらゆる場所で実を結んだ世界観、すなわち知的財産である本が貯蔵されている場所が図書館で、そうした知的財産にアクセスすることによって私たちの世界観が豊かになることからすれば、図書館とは膨大な情報量を持つ外付けのメモリー（archive）です。現在の図書館は、例えばOPAC（Online Public Access Catalog）を通じてネット上でつながっており、このネットワークに自分がつながっているという自覚を持つことができれば、それだけで世界は広がるでしょう。また、多くの資料には注や巻末の文献表がついており、関連するテキストが芋づる式に見つかります。ひとりと友人になれば、多くの友人を一挙で紹介してもらえるわけです。
- 6 これは初版の出版社と出版年の情報。上の写真及び下の請求記号は本学図書館所蔵の文庫版（Paris : Librairie générale française, 1995）のもの。

高校生・中学生の職場体験

昨年度図書館では、中学校、高等学校各1校の職場体験を受け入れました。

中学校は2日間、高等学校は1日と実習日数は異なりますが、図書館の基本的な仕事を体験してもらいました。カウンターで実際の利用者へ貸出・返却する作業は緊張しているようでしたが、中学生も高校生も真剣に説明を聞き、意欲的に取り組んでくれました。

体験終了後、それぞれ感想を書いていただきましたのでご紹介いたします。

本館 11月10日 石狩南高校 3名
花川館 11月1日-2日 石狩市立樽川中学校 3名
11月10日、11月23日 石狩南高校 各3名

石狩南高校 田中さん(本館)

今日は、普段あまり経験することのない多くのことをやらせてくださりありがとうございました。

私は普段高校の図書局員として活動していますが、高校と大学ではかなり図書館が違い驚きました。まず本のラベルの部分の細かさ、著者をアルファベットと数字で表すことが今日一番の驚きでした。そして書庫の広さと大量の本にはとても感動しました。私の学校の書庫は物置みたいになっているので「これぞ書庫!」と思いました。また図書館のキャラクター「きしんさん」はすごくかわいいです。かなりいやされました。本日は、本当に充実した時間をありがとうございました。

石狩南高校 武藤さん(花川館)

今回の花川キャンパスで行った図書館の職場体験は私にとっては2回目という形になりました。初めて来たのはまだ中学生の時でした。それから3年ほどが経ち、再び職場体験をさせていただく機会があり、とてもうれしく思います。今回の職場体験を通して私はやっぱり将来は図書館司書になりたいと強く思いました。小学校の頃からなりたいと思っていた夢を最近、「本当に自分はそれでいいのだろうか。他にやりたいことがあるのではないか。」という迷いがありました。しかし、配架や書架整齊などの作業やたくさんの本の香りを嗅いでとても楽しく落ち着いた気持ちになることができ「やっぱり私は図書館司書になりたい」と思うことができました。

将来に向けてこれからも頑張っていきたいと思います。今回は本当に貴重な時間をいただきありがとうございました。

石狩南高校 村上さん(花川館)

今日一日、本当に貴重な時間を過ごさせてもらいました。大学図書館ならではの辞書や論文の量と種類が大変圧倒されました。藤女子の図書館では本のカバーまでも大切に扱われていて、そのような細かい所まで行き届いた作業があるというのは本当に、魅力的だと思いました。アクティブラーニングエリアの導入はより図書館が使いやすくなっていると思うし、学校にもあったらいいなと思いました。他にも文献資料の探し方など、たくさんの方面と連携をとりながらお仕事をされているというのが分かったので、広い視野と知識がなければいけないと思いました。これからの高校生活では、もっといろんな人と話をしたりしてまずは知識を広げるところから始めていこうと思いました。本日は本当にありがとうございました。

左記3名のほか、福澤さん、中山さん、齋藤さん、工藤さん、小林さん、井下田さんが職場体験に参加されました。高校生はみなさんに感想を書いていただきました。しかし紙面の関係上みなさんの感想を紹介することができませんでしたので、一部抜粋でご紹介します。

- ・高校の図書室と違い、新しい発見がたくさんありました。
- ・普段図書館に行くことは少ないですが、もっと図書館を利用しようと思いました。
- ・図書館司書の資格を取ろうと考えていたので今回の体験はとてもよい機会でした。
- ・司書体験で書架整齊、配架など、良い経験ができました。



石狩市立樽川中学校 赤山さん

今回はお時間をいただきありがとうございました。今回学んで感じたことは図書館の方が優しく丁寧に教えてくれたことと、貸出、返却が予想以上に楽しかったことです。

一つ難しかったことは、配架です。配架は本を棚に戻す仕事です。英語が苦手なので、並べるのにてこずり時間を取ってしまい、みんなの足を引っ張ってしまいました。

今回、一人一人が楽しみながらできたと思います。2日間ありがとうございました。

石狩市立樽川中学校 宮沢さん

今回この職場体験をさせていただいて、とても貴重な経験になりました。

大学の図書館を初めて見たのですが、綺麗で手入れが行き届いていて凄いなと感じました。

中学校の図書室とはところどころ違った点があり、面白かったです。

何より楽しかったのは製本体験です。本を作る過程を深く知れて良かったです。丁寧に教えていただきありがとうございました。

石狩市立樽川中学校 石川さん

今回初めて藤女子大学の図書館に来て、貸出・返却、製本体験、図書の補修、書架整音など、色々な体験をさせていただきました。2日間とても楽しく職場体験をすることができたので、仕事のやり方などを教えてくれた職員の方々にはとても感謝しています。

ありがとうございました。



LiSt 活動報告 第4回

【LiSt、挑戦の年】

新入生の皆様ご入学おめでとうございます。これを記している今は外で雪が降ったり止んだり忙しいです。さて、私たちLiStも昨年度は目まぐるしく様々な挑戦をした年でした。

まず、新入生オリエンテーションでは1年生へ図書館の紹介や案内を行いました。その後は、オープンキャンパスや職場体験に参加した高校生に図書館の紹介をしました。私は、最初は緊張しましたが、徐々に慣れっこになっていました。人間は成長する生き物ですね。

藤花祭では皆で学科紹介展示を作りました。今年は先生おすすめの本などを紹介するコーナーがあったらいいと思います。

また、私は選書ツアーに初めて参加しました。当日本を選ぶだけでなく、後日選んだ本とポップが図書館に展示されるので1度で2度楽しい企画となっています。今年もどんどんど参加ください。

今年度も図書館をより良いものにしていけるようLiStとして頑張っていきます。

(花川LiSt 川上)



No.97 2019.4

展示紹介 学生による企画展示



図書館花川館では、カウンター前のスペースで2018年12月から2019年2月まで人間生活学科・長尾ゼミの学生さんによる展示を行っていました。

今回は、人間生活学科3年（*展示当時の学年）の竹村さん、砂川さんに展示について紹介してもらいました。

こんにちは、長尾ゼミです！

私たちは、昨年10月に行われた藤花祭にて、クマのぬいぐるみに宝塚をモチーフにしたドレスや燕尾服を作成して着せた通称藤ジェンヌを販売致しました。

今回、図書館にて『藤ジェンヌ出張公演「Mon École 一我が学び舎よ！」』をテーマに、図書館の宝塚関連の本のキャプションをゼミメンバーが作成し、藤ジェンヌとともに展示させて頂きました。



『タカラジェンヌのすべて』

「東の東大、西の宝塚」と言われるほど超難関の宝塚音楽学校。そんな難関校に合格するには歌やバレエが上手いだけでは入ることができない。入学した瞬間からプロとして完璧を求め続ける団員たちの裏側など興味深い内容がぎっしりとつまった一冊です。



『元・宝塚総支配人が語る「タカラヅカ」の経営戦略』

宝塚の歴史は古く、長年にわたり多くの人を魅了し続けている理由とは何なのか。宝塚の最大の特徴は、「素人の神格化」であり、さらにそれをビジネスとして成立させ、100年以上続けてきた点であると著者は述べる。宝塚を経営戦略の視点から見ることができる新しい一冊になっています。



新規データベース紹介

図書館では新たに2つのデータベースを導入しました。

図書館ホームページの「電子ジャーナル・データベース」一覧画面から利用することができます。ぜひ、ご利用ください！

JapanKnowledge Lib『美術新報』（学内限定）

明治35年（1902）から大正9年（1920）まで、19年間にわたって刊行された『美術新報』全巻300冊を収録しています。

ジャパンナレッジ版では、書籍のように一冊ごとに頁をめくって閲覧することも可能ですし、本文中のタイトル・作者名などはもちろん、本文記事中の語彙から検索することもできます。また、各号末にある時報・彙報などの記載から68,000語余りの固有名詞も検索できるようになっています。

小学館コーパスネットワーク（学内限定）

小学館コーパスネットワークとは、最大級の英語コーパス検索サイトで、実際に英語がどのように使われているかを、テキストや発話を大規模に集めてデータで示してくれるデータベースです。文法パターンや例文などをさまざま条件で検索することができます。



図書館からの報告

北海道胆振東部地震の藤女子大学図書館被害状況について

昨年9月6日未明に発生しました北海道胆振東部地震で被害に遭われた学生、教職員の皆さま、被災地域の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。本学図書館では地震発生当日職員が出勤し、図書館の被害状況を確認しました。幸いにも図書館では大きな被害はありませんでしたが、本館では2階参考図書の一部（50～60冊程度）とCDの一部が落下し、CDのプラスチックケースが破損しました。また、壁の一部に亀裂が発生しましたが、点検の結果問題が無いことが確認されております。

花川館では3階書架の雑誌の一部が落下し、2階と3階の壁に固定している書架の金具と壁が破損しましたが、現在は補強補修工事を完了しております。

今回の地震は利用者がいない深夜という時間でしたので人的被害はありませんでしたが、自然災害はいつ起こるかわかりません。図書館内で地震が発生し揺れを感じたときは、本が落下する危険があるので書架から離れる、揺れが止まるまで閲覧テーブル等の下に身を隠すなど、安全確保をしていただく必要があります。図書館では利用者の安全確保を優先し、迅速に避難誘導ができるように努めてまいります。

本館



花川館



工事中



工事後



壁の一部破損等の被害のため、工事が終了するまでは一部利用出来ない場所がありました。利用者みなさまにはご不便をおかけいたしました。

外国の建築家から見た 日本の建築美

人間生活学科 田中 宏実

「泣きたくなるほど美しい」この言葉に出会ったのは、大学院で建築を学んでいる時でした。誰が言った言葉なのか知りたくて調べていくと、昔の外国の建築家が京都のある建築物を初めて見た時に言った言葉らしい、ということがわかりました。その建築物とは「桂離宮」でした。桂離宮は江戸時代初期に皇族の八条宮の別邸としてつくられた建物群と庭園で、日本建築史においては傑作とされる建物です。この建物を世界へ向けてはじめて広めたのが先の言葉を残した世界的建築家ブルーノ・タウト（独）です。タウトは日本からの招待を受け、1933年5月に初めて日本を訪れました。到着した日の翌日に桂離宮を訪れています。その時に見た桂離宮について、のちに著書で「桂離宮」はパルテノン、タージ・マハルとともに世界三大美建築と絶賛したことで知られています。タウトは日本各地を巡り、後に調査をした結果を、「日本美の再発見」（岩波新書1939年初

版発行 現在増補改訳版が出版されている）などの書籍等にまとめられておりタウトに関連する書物は藤女子大学の図書館に何冊も所蔵されています。

さて今回紹介したいのは、先日、藤女子大学の図書館で見つけた「画帖 桂離宮」（岩波書店 1981年発行）です。この本は文字と水墨画で桂離宮が表現されています。タウトは初訪問の翌年、再び桂離宮を訪れ、後に記憶を辿りながらスケッチを描き残しました。桂離宮をタウトの視線で見ることができるのがこの画帖の特徴です。加えて篠田英雄氏による解説を掲載した小冊子も付いており、意味を理解する手助けになります。図書館にあるこの本は限定で800部刷られたうちの一冊です。なかなか手に入らない貴重な資料。興味を惹かれた方はこれを見て、タウトに誘われながら桂離宮の世界に赴いてみましょう。



『日本美の再発見』請求記号：291/Ta96（本館所蔵）
『画帖桂離宮』請求記号：521/Ta96（本館所蔵）

● 編集後記 ●

巻頭言は「図書館で、友なる本に出会おう！」と題して勝西先生からご寄稿いただきました。先生の高校時代の思い出や哲学研究の道に進もうと思ったきっかけの本などが紹介されています。図書館資料Naviは「外国の建築家から見た日本の建築美」と題して田中先生にご寄稿いただきました。ブルーノ・タウトの本は、画像で紹介した以外にも所蔵があります。タウトが絶賛した「桂離宮」についての本も図書館に所蔵があるので探してみてください。

昨年は台風や地震など災害の多い1年でした。図書館の地震被害について報告しましたが、ご家庭でも停電や断水など大変な生活をした方が多かったと思います。図書館には防災の本もたくさん所蔵しています。「備えあれば憂いなし」という言葉もありますので、時間のある時に読んでみませんか？(W)



図書館キャラクター
「きしんさん」

スマートフォンでは
アプリを利用でき
ます

藤女子大学 図書館だより 第97号 2019.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770
<http://www.fujijoshi.ac.jp/library/>